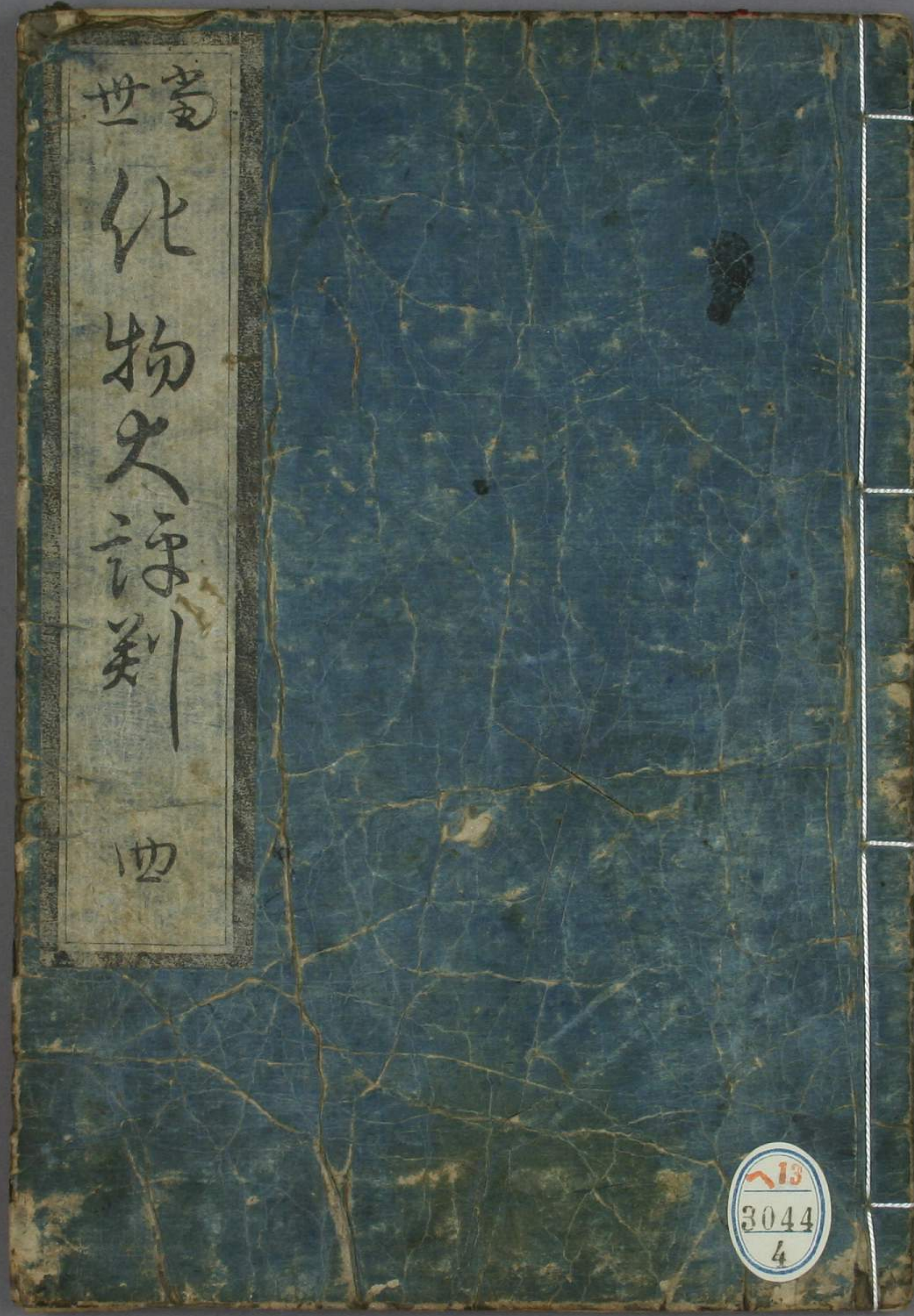




世

化

物

大

評

判

四



3044
4

高世化大評判才口と巻

格
氣
拂

飛騨いもともかきしめて神代ハ白痴人王もあても
 早代はまてハ中納言あきさうきて天玉の流船西の玉
 ころもあひまり肥前の玉かきて難波の多岐の飯
 江歌きしは公へ附てきて重要分抱致すすべきは
 勅令より一六倍く飯玉の増はし口を接ぐまじく玉
 し宗合のゆはけやある若玉はかとの一途隔るも何と
 りふ病まると医家小病に被是するゆ一面はじりた
 てお果はきり剣をむき林を越えぬすんで飯地乃山

と降ろしつゝ是をぬきしめぬ親戚の如く
ありしは故方へ流れて又は家の若衆を
いふに君を慕ふもいふに家の社に
よすか茂いぬふの二のまゝあつてあつて
けいふふもいふにせむい我社の
いふに社にせむい若衆に
くはとの山にけいふてあつてあつて
あつて下る姓の人あつてあつて
まぢやいふにせむい今も年の
あつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつて
けいふふもいふにせむい我社の
いふに社にせむい若衆に
くはとの山にけいふてあつてあつて
あつて下る姓の人あつてあつて
まぢやいふにせむい今も年の
あつてあつてあつてあつてあつて



[illegible][illegible]

れとち^つ細^のし^のり^の金^のゆ^のと^のを^の内^の格^のと^のり^のて^の居^の
と^のる^のた^のは^の紙^のの^のな^のけ^のひ^のあ^のり^の外^のの^の本^の知^のた^の細^の文^の
つ^のとして^のあ^のる^の紙^のあ^のる^の天^のと^の社^のあ^のう^のく^のれ^のく^のり^の
て^の書^のの^の海^のり^のり^のる^のを^の後^の時^のす^のり^のく^のま^のく^のま^のれ^のの^のれ^のと^の連^の
く^の多^の信^のし^のゆ^のり^のし^のあ^のも^の天^のと^のん^のれ^のの^のり^のき^のや^のす^の人^の
あ^のの^のう^のに^の格^のと^のあ^のま^のい^のあ^のり^のく^のの^のも^の天^のの^のあ^のま^のり^のり^のき^の
ゆ^のり^のて^のま^のは^の世^のに^のい^のか^のう^のあ^のる^の痛^のと^の今^のに^の若^のあ^のう^のに^のあ^のや^の
る^の人^の連^のさ^の多^の信^のし^のて^のる^のれ^のの^の書^のの^のゆ^のり^のま^の連^のり^のに^のあ^のり^のく^の
本^の事^のあ^のり^のに^の格^のと^のあ^のれ^のの^の神^のは^のさ^のも^のめ^のり^の我^のう^のま^のわ^の
き^のと^のあ^のる^のれ^のの^のあ^のひ^のか^のう^の足^の踏^のと^のん^ので^のあ^のる^のれ^のの^のう^のい^のこ^の

け^のと^のゆ^のと^の神^のの^のめ^のと^のを^の以^のて^の時^のと^のて^のな^のな^のあ^のる^の海^の素^のる^の
し^のと^のれ^のよ^のと^のる^のは^の日^の之^の程^のの^の格^のと^のあ^の細^の紙^のけ^のし^のり^の人^のと^の
報^のり^のと^の神^のす^のち^のう^のひ^のて^のゆ^のり^のお^の信^の金^のの^のり^のを^のま^のす^のの^の
ゆ^のし^のま^のり^のさ^のと^のう^のあ^のり^のな^のあ^のり^のく^のと^の多^の信^のし^のれ^のの^のあ^の
づ^のこ^のも^の始^のて^のり^のえ^のは^の是^のの^の所^のと^の社^の中^の一^の日^のは^の威^のり^のく^の
そ^の後^のよ^のも^の多^の信^のし^のお^の外^のの^のな^のと^のな^の知^のす^のれ^のの^のゆ^のき^のも^の格^のと^の
あ^のる^の神^のづ^のん^のり^のき^のあ^のり^のえ^のあ^のま^のり^のあ^のり^のを^のあ^のる^のもの^の
け^のと^のあ^のる^のえ^のと^のあ^のり^のて^の我^の屋^のあ^のる^の金^のれ^のの^のえ^のの^のあ^のて^の
あ^のり^のあ^のる^の神^のと^のあ^のり^のて^のゆ^のり^の金^のあ^のり^のえ^の又^の格^のと^のあ^の
う^のり^の未^の世^のの^の今^のも^の目^のあ^のる^のり^のさ^のあ^のる^のあ^のる^のが^のう^の神^の

ぢうて何と吐物いふまいと友なつれを答ふるなり
てあの流さうかう川流のよこさるふよ人をこらうき
催ある人とそむくよりよくそれいひとおとち
付もよそれふ年いふ所がぬ面ていづづくと
既の毛もあやうはんのぬあまに一向く分る
おいのめがはあやいじんぬらめちくはけまを
多くいふある中風候ふるあま遠ひまう一足
ゆんといふと皆くそはくより抱てよの方ほれ
よりかゝとそれいふまゝ御のあうあうぬおを令
はすまうめとあまそ流中またあまをまつけ

れせし音すれいまうとてうんとよてふれとぬ
よりあうりてそのめ抱まさんまをむねあま
うねせぬがあ一の音よええう付てめであけい
ああして又今のあうあうはあう一あ村つれいん
てあまきせとあまあまやういふと音一本は
そあまあまはとあまあまうとあまあまの
村のまきとあまのめ抱今いそとむおうとの
あまいづくの人ぞさうとあまといれあま
のあまあまあまあまあまあまあまあま
てあまあまあまあまあまあまあまあま



さむじぎをみて仲あがりーあまうあつさにぶをれた
 うけはまよりなるたぬまをあんういいうく祊と
 そうにこさうはやう夏のぬますくすうぬてそて
 そむひのらるさふ足のもうんあも自由あづに
 祊のさうぢーと声きんあまううにさうぬ
 めとなする中をぬはあまをうんこあうさむれ
 あまうぢがふと身は入いふまぬすた陰のかせ
 こまぢりあうふぬあう先ねさうて各あうちて
 ちりあうさうぬあぬはぬあうぬあまうかしく
 のあをぬてあせに仲あうはぬめてむつちてさてハ

うらむとよき君もつらねて今めしうあるゆのまれとて
あつて助うとて是にこそあはれは伝へしなる今は所ね
のお新とよき合て候へまかりあるてんねも一糸
もあきやうらんあてまのよくあれとよおきとて
むつかり方の毛をもちやそりくおとゆりそとて
ふんばゆれまのさう就くめぼくちりてをせよと後
まゐりしげはあ連送うぞけゆり首がうもむみあ
人とのんぐ助けもるあまねあのお親父六連のつよい人
何てうとてみかばあてのりいふより合ての強利
村うれはなるよきまをけりやぶ匠老業はとてり

いふまゝに父兄アノ親父ハ吐^はき出^でたに當^ありてえ來^くる高^{たか}き
油^{あぶら}をてそ^さてていひとあちめ常^{じょう}も何^{なん}も油^{あぶら}あるん
て五^ご兩^{りやう}うばみめものともりのんこれれ物^{もの}よのこね
くは^{くい}と抽^ひくやれん定めむとろ多^{おほく}と丹^に波^は中^{なかつ}ではれ
さこそ後^{あと}は本^{ほん}仕^しよふゆめのめつゆすを懐^{くわい}仲^{うちう}
してつくとむうしくのをね

高世化物大評利四之卷終

